イチゴの病害虫の発生状況（12月上旬）

１　うどんこ病

発生ほ場割合は平年並でした（図１）。厳寒期は施設を閉めきることが多く、湿度が上昇するため、発生しやすくなります。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を徹底してください。

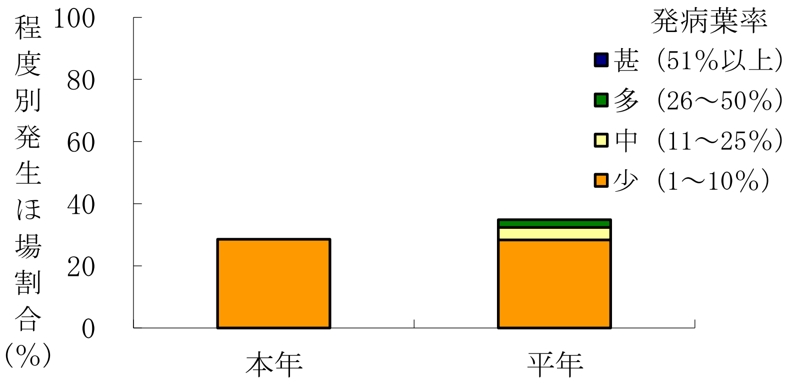

図１　うどんこ病の発生状況

２　土壌病害（炭そ病・萎黄病）

発生ほ場割合は平年並でした（図２）。巡回調査では炭そ病、萎黄病が確認され、育苗時に発生し、本ぽに持ち込まれたと考えられます。発病株及び発病が疑われる株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分してください。

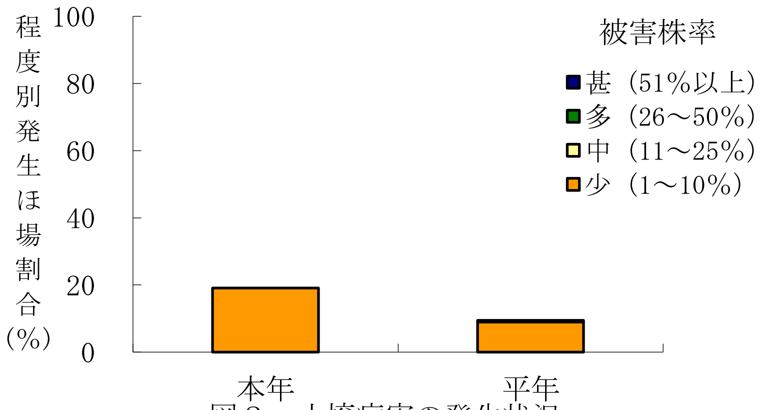

図２　土壌病害の発生状況

３　アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図３）。主な寄生種はワタアブラムシとイチゴケナガアブラムシでした。一部のほ場で果梗への寄生が確認されています。低密度時から薬剤防除を実施してください。

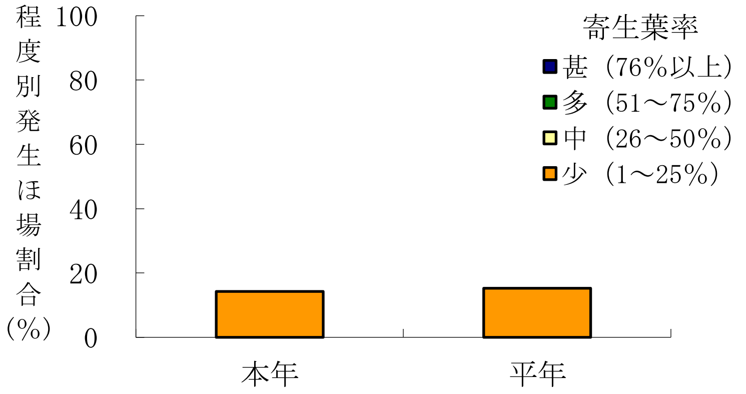

図３　アブラムシ類の発生状況

4　ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図４）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください（令和３年10月12日付け防除情報参照）。

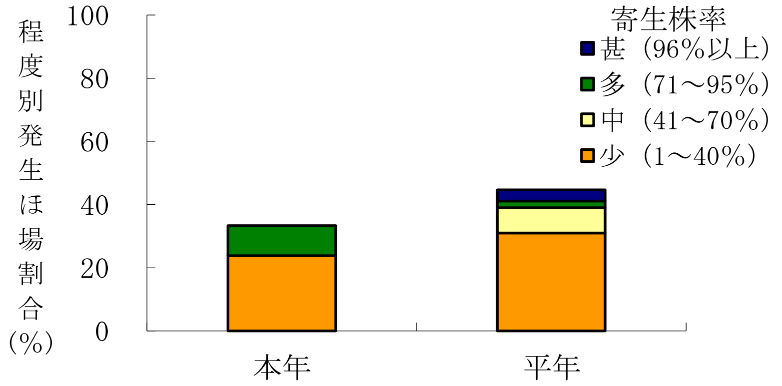

図４　ハダニ類の発生状況

5　コナジラミ類

発生ほ場割合は平年並でした（図５）。密度が高くなるとすす病発生の原因となるので、低密度時から防除を実施してください。

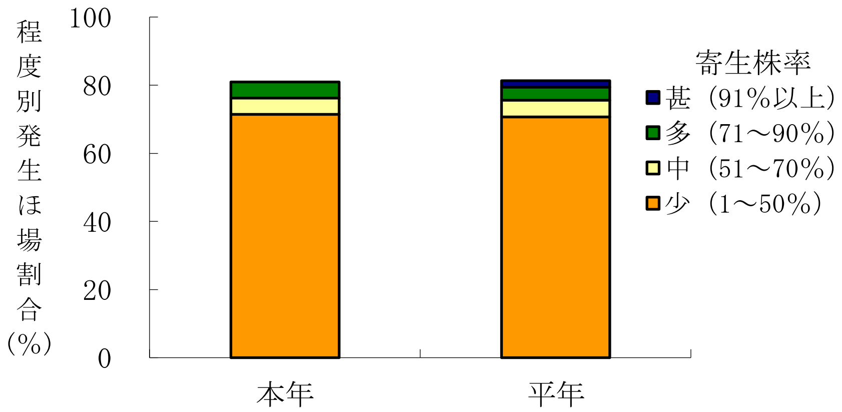

図５　コナジラミ類の発生状況

6　アザミウマ類

発生ほ場割合は平年並でした（図６）。主な寄生種はヒラズハナアザミウマでした。密度が高くなると被害果が発生します。開花中の花をよく観察して、寄生がみられる場合は低密度時から防除を実施してください。

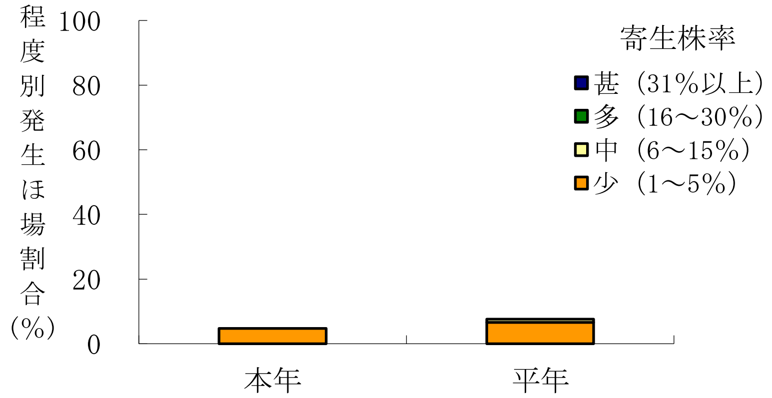

図６　アザミウマ類の発生状況

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709　Fax:024-958-1727　Mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp